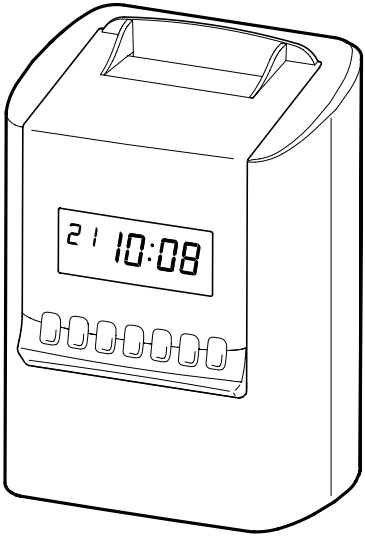
時間集計タイムレコーダ

Z170

取扱説明書 A

パソコンで計算したいお客様用



SEIKO

はじめに

このたびは、弊社タイムレコーダをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。タイムレコーダを安全に正しくご使用いただくために、お使いになる前にこの取扱説明書を、必ずお読みください。またお読みになった後は、いつでもお使いいただけるように大切に保管してください。

ご使用上の注意

本製品で、ご使用になられるＵＳＢメモリは、付属のＵＳＢメモリをご使用ください。

市販のＵＳＢメモリのご使用については、動作保証いたしませんので、あらかじめご了承ください。また、本製品のUSBコネクタには、USBメモリ以外は差し込まないでください。USBメモリ以外を本製品に差し込んだことによる故障につきましては、弊社では一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

1. 本書の内容につきましては、予告なしに変更することがありますのでご了承ください。
2. 本書の内容につきましては、万全を期しておりますが、万一お気づきの点、ご不明の点などがありましたら、ご購入の販売店までお問い合わせください。
3. 運用に際しましては、本書の内容を十分に理解いただいた上でご活用ください。
4. お客様が本機を運用された結果の影響につきましては、上記2項にかかわらず、弊社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。
5. 本書の内容の一部あるいは全部を、無断で複写することは禁止されております。
6. 本製品は日本国内仕様であり、国外での使用に関しては弊社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。
7. 本製品ならびにUSBメモリへ保存されたデータが消失、破損したことによる被害につきましては、弊社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。
8. 上記消失、破損したデータの回復作業もお受けしておりませんので、あらかじめご了承ください。

Copyright © 2015 SEIKO PRECISION INC.

目次

1. 安全に正しくお使いいただくために — **3**
2. ご使用になる前に — **5**
付属品をお確かめください — 5
各部の名称とはたらき — 6
準備 — 7
リボンの交換 — 9
壁掛けの方法 — 10
3. 設定のしかた — **11**
設定の準備 — 11
設定の手順 — 12
時刻の設定 — 13
日付の設定 — 14
締日の設定 — 15
印字段切換時刻の設定 — 16
集計方法の設定 — 17
プログラムの設定 — 19
サマータイムの設定 — 24
端末No.の設定 — 28
出力形式の設定 — 29
パスワードの設定／解除 — 31
リセット — 34
オールクリア — 35
4. 日常の操作 — **36**
5. パソコンとの連携 — **38**
6. Q&A — **41**
7. こんなときには(エラー番号が表示されたら) — **42**
8. 仕様一覧 — **43**
9. 消耗品およびオプション品 — **43**

1.安全に正しくお使いいただくために

本書は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぐために、守っていただきたい事項を示しています。

絵表示について

本製品の取扱説明書及び製品への表示では、製品を正しくお使い頂き、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、感電する「危険」があることを示します。	この表示は、必ず実行していただきたい内容を示しています。
この表示は、分解してはいけないという、「禁止」を示しています。	この表示は、必ずACアダプタをコンセントから抜いていただきたいことを示しています。
この表示は、してはいけない、「禁止」行為であることを示します。	

警告

この機器を分解しないでください。 内部には電圧の高い部分があり、感電のおそれがあります。
この機器を改造しないでください。 火災、感電のおそれがあります。
万一、発熱していたり、煙が出ている、変な臭いがするなどの異常状態が発生した場合は、すぐにACアダプタをコンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災、感電のおそれがあります。
表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。またタコ足配線をしないでください。火災、感電のおそれがあります。
ACアダプタを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また重いものをのせたり、引っぱったり、無理に曲げたりするとACアダプタをいため、火災、感電のおそれがあります。

万一、異物（金属片、水、液体など）が機器の内部に入った場合は、すぐにACアダプタをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災、感電のおそれがあります。

濡れた手でACアダプタを抜き差ししないでください。感電のおそれがあります。

⚠ 注意

ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。

この機器の上に水などの入った容器または金属物をおかないでください。
こぼれたり、中に入った場合、火災、感電の原因となることがあります。

湿気やほこりの多い場所には置かないでください。
火災、感電の原因となることがあります。

調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたるような場所に置かないでください。
火災、感電の原因となることがあります。

ACアダプタを抜くときは電源コードを引っ張らないでください。
（必ずACアダプタを持って抜いてください。）
コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。

本機器を移動させる場合は、必ずACアダプタをコンセントから抜いて行ってください。コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。

印字ヘッド部分には、触れないよう、ご注意ください。
けが、火傷の原因となることがあります。

ACアダプタは奥まで確実に挿入してください。
火災、感電の原因となることがあります

タイムカードの挿入口には指定のタイムカード以外は差し込んだり、落としたりしないでください。
火災、感電の原因となることがあります。

万一、この機器を落としたり、ケースを破損した場合は、ACアダプタをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災、感電の原因となることがあります。

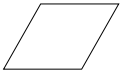
本機器は、容易にACアダプタを抜くことが可能なところでご使用ください。
万一、発熱していたり、煙がでている、変な臭いがするなどの異常状態が発生した場合に、すぐにACアダプタをコンセントから抜くことができないと、火災、感電の原因となることがあります。

日頃のお手入れについて

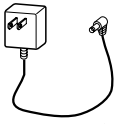
ケースが汚れたときはACアダプタをコンセントから抜き、ほこりや汚れを乾いた布などで掃除してください。

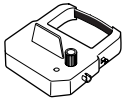
2.ご使用になる前に

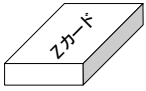
付属品をお確かめください


取扱説明書Ａ
（本書）

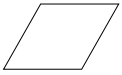
壁掛け取り付け
ネジ２本

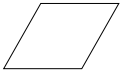

ACアダプタ


リボン
カセット



タイムカード
「Zカード」
1箱100枚


取扱説明書Ｂ

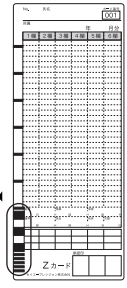

案内シート

USBメモリ

タイムカード

このタイムレコーダでお使いいただけるタイムカードは、
「Zカード」1種類です。

Zカード
（黒印刷）



注意 バーコードの部分は絶対に汚さないようご注意ください。また、ペン書きしたり付せんなどの貼付けも厳禁です。タイムレコーダがタイムカードを読みとれなくなる場合があります。

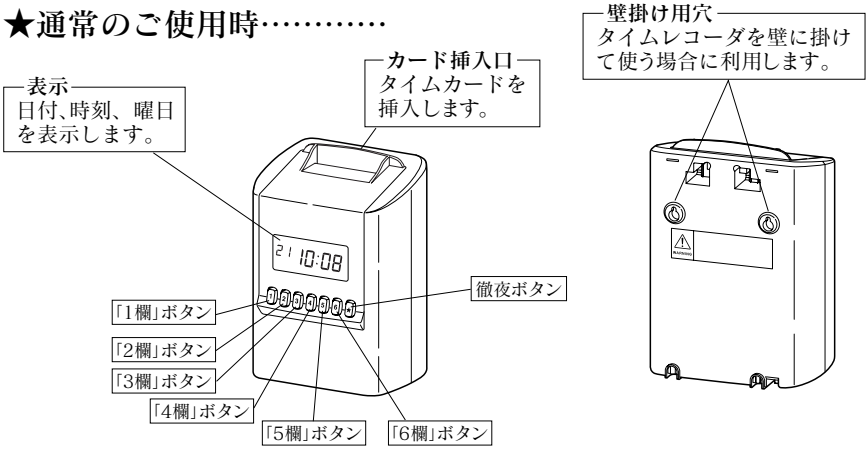
注意 Ｚカードは、カードの右上に＜００１＞から＜１００＞までのカード番号が印刷されています。
現在使用中の箱と新たに開封した箱の両方から同時にタイムカードを取り出す場合は、カード番号が絶対に重複しないようにしてください。
タイムレコーダは、カード番号に基づいて出退勤データを記憶しますので、カード番号が重複するとパソコン側の集計ソフトで正しい計算ができなくなります。
カード番号の重複を未然に防止するためにも、常に若い番号のカードから順番に使用するよう心掛けてください。

この装置は、クラスＡ情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI－A

各部の名称とはたらき

★通常のご使用時……

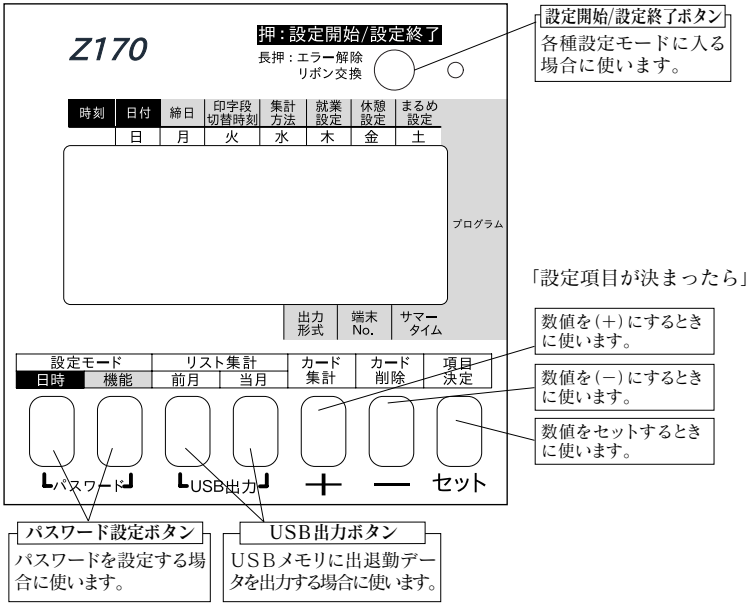


操作ボタンについて

1欄～6欄ボタン … 印字欄を切り換えたい時に使用するボタンです。
このボタンは､タイムカードを挿入する前に押してください。但し､「計算有り」でご利用になる時は､“1欄”と“2欄“ボタンしか使えません。

徹夜ボタン …… 徹夜勤務の時に使います。

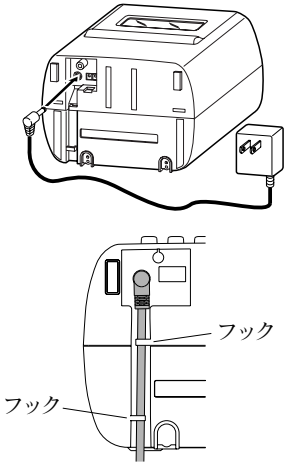
★時刻や締日などを設定する時……カバーを外します。



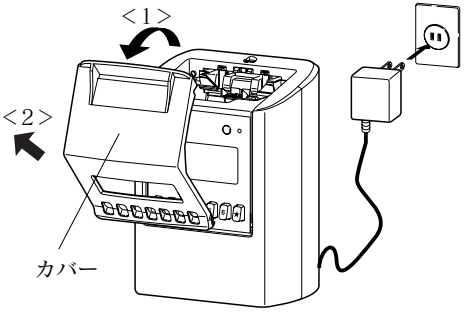
準備

タイムレコーダをお買い上げ時は、ACアダプタとリボンカセットが装着されておりません。下図の手順で、ご使用前の準備をしてください。

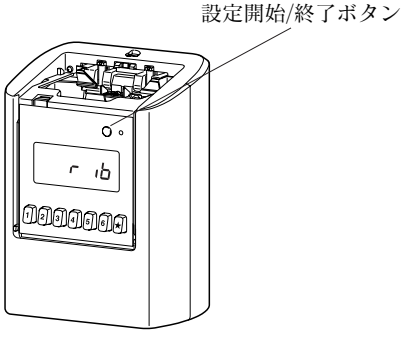
❶ タイムレコーダを底面が見えるよう置きます。
次にACアダプタのプラグをコネクタに差し込み、コードを2ヵ所のフックの内側に入れます。



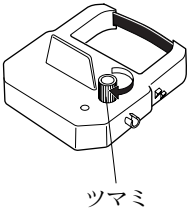
❷ ACアダプタをコンセントに差し込むとタイムレコーダが動き出します。
次にカバーの上端部を手前に倒し、＜1＞、斜め前方に引いて＜2＞、カバーをタイムレコーダ本体から外します。



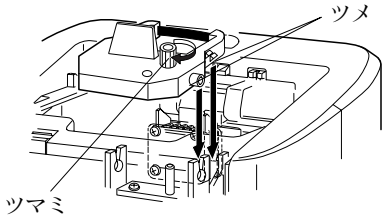
❸ 設定開始/終了ボタンを3秒以上押し続けると、表示が下図のようになり、リボンカセットを取り付けできる位置に移動します。



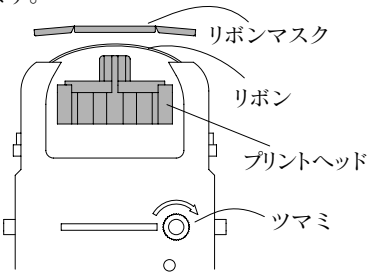
❹ リボンカセットのツマミを矢印の方向に回して、リボンのたるみをとります。



❺ リボンカセットを図のように本体に装着します。
左右各2ヵ所のツメがパチッと音がするまで押し込みます。入れづらいときにはツマミを矢印の方向に回しながら入れてください。

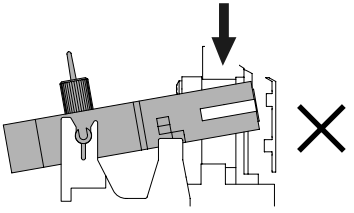


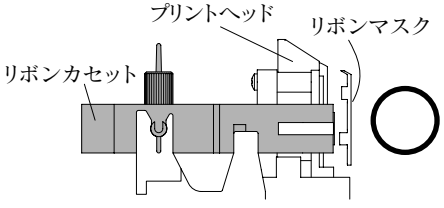
❻ 下図のようにリボンが、プリントヘッドとリボンマスクの間に入るようにリボンカセットを入れてください。
リボンカセットのツマミを矢印の方向に回して、リボンのたるみをとります。

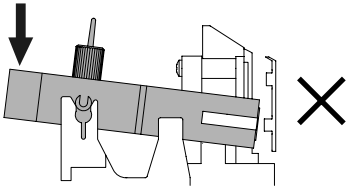


リボン装着状態の確認

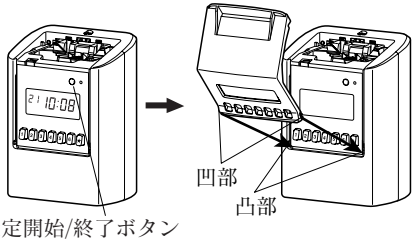
下図のように、横から覗いてリボンカセットが水平に入っていれば、正しく装着できています。
右の図のような場合は、ツマミを矢印の方向に回しながらリボンカセットが水平になるように押し込んでください。







❼ 設定開始/終了ボタンを3秒以上押し続けるとタイムレコーダが動き出し、時計表示となります。
カバーの凹部を本体の凸部に合わせてカバーをタイムレコーダ本体に取り付けます。

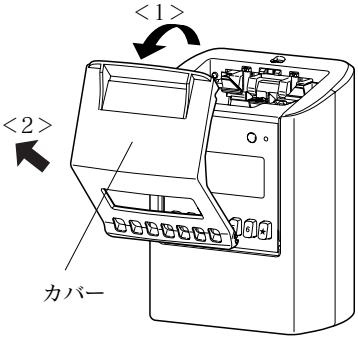


リボンの交換

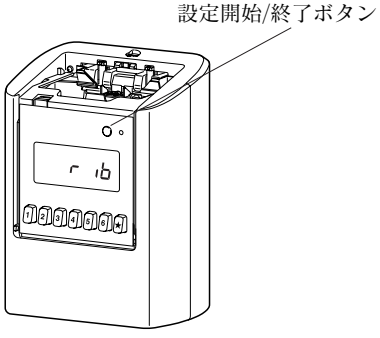
必ず電源を入れた状態で行ってください。

タイムレコーダで印字される文字がうすくなった場合は、リボンカセットを交換してください。

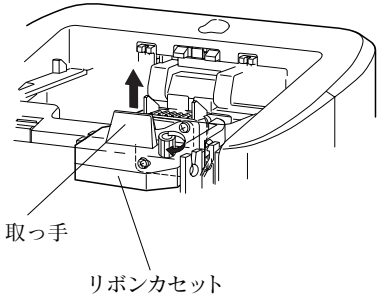
❶ カバーの上端部を手前に倒し、<1>、斜め前方に引いて<2>、カバーをタイムレコーダ本体から外します。



❷ 設定開始/終了ボタンを3秒以上押し続けると、表示が下図のようになり、リボンカセットを取り外せる位置に移動します。



❸ 取っ手を持ち、上に引き上げてリボンカセットを取り外します。



引き続き、「準備」の手順④～⑦にしたがって、新しいリボンカセットを取り付けてください。

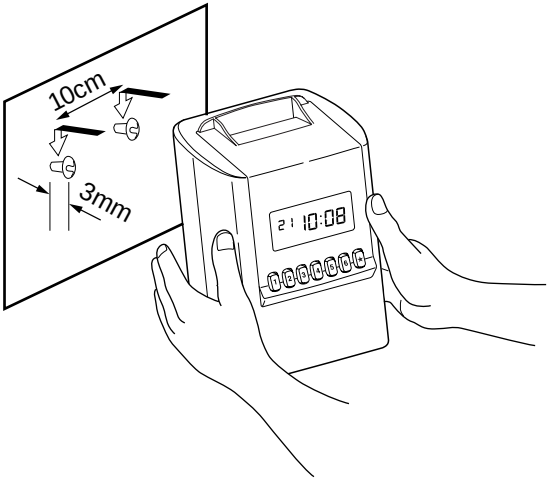
壁掛けの方法

付属のネジを使って、タイムレコーダを壁に掛けることができます。壁に掛けて使用する場合には、次のようにしてください。

❶ 付属の壁掛け取り付けネジ2本を、横10cmの間隔で壁に取り付けます。このときネジの頭を3mmほど出して、取り付けてください。

❷ タイムレコーダ背面の壁掛け用の穴を使って、ネジに引っかけます。

> ❗ 同梱されているネジは木造の厚い壁や木の柱でご使用されることを前提としており、それ以外の条件の場所ではご使用にならないようにしてください。タイムレコーダが落下してお客様がケガをされたり、また本体の故障の原因となるおそれがあります。



設置について

次のような場所でのご使用は避けてください。

- ●湿気やほこりの多い場所
- ●直射日光のあたる場所
- ●振動の激しい場所または常時振動が発生する場所
- ●気温が－5℃以下や、45℃以上の場所
- ●化学薬品やオゾンなどの影響をうける場所

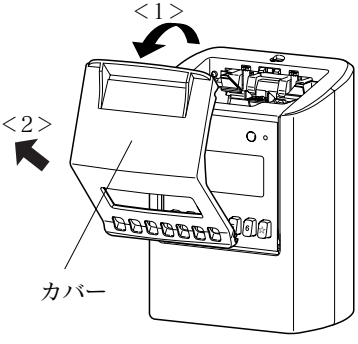
3.設定のしかた

設定の準備

締日や時刻など設定する前に、カバーを外して設定できる状態にします。

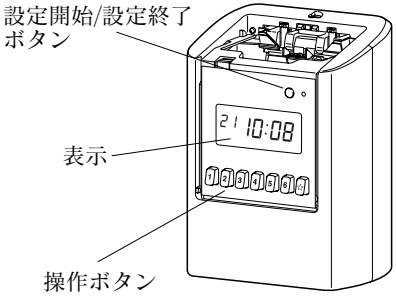
> ❗ 設定する時は、コンセントにACアダプタを差し込み通電した状態で行ってください。

❶ カバーの上端部を手前に倒し、<1>、斜め前方に引いて<2>、カバーをタイムレコーダ本体から外します。

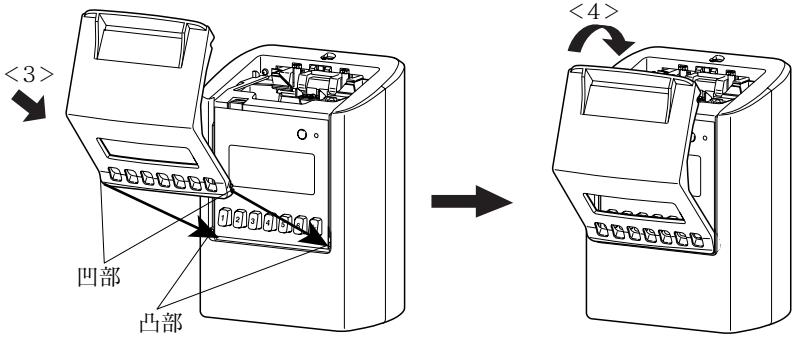


❷ 表示を見ながら操作ボタンを使うことにより設定ができます。

> 各設定の詳細については
> 次ページ以降をご覧ください。



❸ 設定終了後は②と逆の手順でカバーの凹部を本体の凸部に合わせて<3>、カバーをタイムレコーダ本体に取り付けます<4>。



設定の手順

各設定の詳細については次ページ以降をご覧ください。

時刻と日付の設定

設定開始ボタンを押してから 設定モードの日時ボタンを押して設定モードに入ります。

時刻の設定 ➡ **時刻**

あらかじめ現在時刻に設定されていますが、時刻が進んだり、遅れたりした時に操作してください。

日付の設定 ➡ **日付**

あらかじめ年(西暦)、月、日は設定されていますので、あらためて設定する必要はありません。

必ず確認または設定してください。

パソコンとの連携にかかわる設定

設定開始ボタンを押してから 設定モードの機能ボタンを押して設定モードに入ります。

締日の設定 ➡ **締日** 初期設定：31(月末締め)

締日が月末以外の場合に設定します。

印字段切換時刻の設定 ➡ **印字段切換時刻** 初期設定：0:00

タイムカードの印字を1段下げて、次の日の段に切換える時刻を設定します。

集計方法の設定 ➡ **集計方法** 初期設定：5(計算なしPC連携)

本体で時間計算したい場合に設定します。
その場合は別冊「Z170 取扱説明書B」をご覧ください。

端末No.の設定 ➡ **端末No.** 初期設定：001

タイムレコーダを複数使用するときに端末No.の設定をします。

出力形式の設定 ➡ **出力形式** 初期設定：1(CSV形式)

弊社の旧製品の集計ソフト「勤たんQR」と連携したい場合に設定します。

その他の設定 ➡ **プログラム** 初期設定：なし

出勤時刻や退勤時刻に合わせて印字欄を自動で切り換えたい場合に設定します。

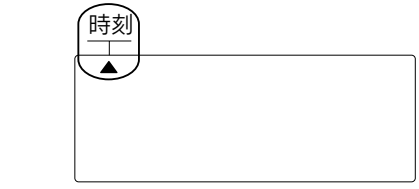
サマータイム 初期設定：なし

日本国内でサマータイムが導入されたときに設定します。

時刻の設定

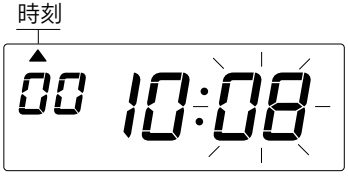
あらかじめ現在時刻に設定されていますが、時刻が進んだり、遅れたりした時は修正してください。時刻表示は24時間制です。

例　10時8分を10時9分に変更する場合

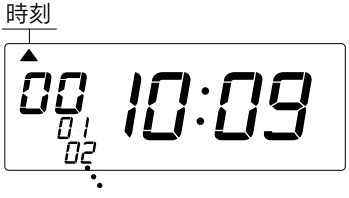


❶ 設定開始ボタンを押してから日時ボタンを押すと、表示の上側の“▲”が「時刻」に合います。
項目決定ボタンを押すと時刻が表示されます。

点滅している数字が変更できます。



❷ 例では“時”は10時のまま変更しませんので、このままセットボタンを押します。これで10時が設定できました。
この時、表示の点滅は“時”から“分”に移ります。
また、“秒”は“00”秒になります。



❸ 時刻の“分”を変更します。
＋ボタンを押して、“09”分に合わせ、次にセットボタンを押します。“秒”が進みだしたら時刻の設定は完了です。

❹ 設定状態からご使用状態に戻すため、設定終了ボタンを押します。
これで設定は終了です。
表示は時刻のコロンが点滅し、ご使用状態に戻りました。
カバーをつけてご使用ください。

日付の設定

あらかじめ年（西暦）、月、日は設定されています。（あらためて設定する必要はありません。）オールクリア操作などで、初期状態に戻した場合は、あらためて設定してください。

例　2015年10月20日を同年同月21日に変更する場合

❶ 設定開始 ボタンを押してから 日時 ボタンを押して、表示の上側の“▲”を「日付」に合わせ、項目決定ボタンを押すと日付が表示されまさす。
年は西暦下２桁で表示されます。

点滅している数字が変更できます。

❷ 例 では、“年”は2015年のまま変更しませんので、このまま セット ボタンを押します。これで2015年が設定できました。この時、表示の点滅は“年”から“月”に移ります。

❸ 例 では“月”は10月のまま変更しませんので、このまま セット ボタンを押します。
これで10月が設定できました。
この時、表示の点滅は“月”から“日”に移ります。

❹ “日”を変更します。
＋ ボタンを押して“21”日に合わせ次に セット ボタンを押します。
“日”の点滅が点灯に変わったら、日付の設定は完了です。

❺ 設定状態からご使用状態に戻すため、設定終了 ボタンを押します。
これで設定は終了です。
表示は時刻のコロンが点滅し、ご使用状態に戻りました。
カバーをつけてご使用ください。

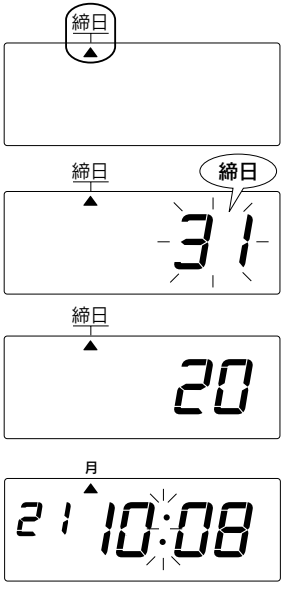
締日の設定

あらかじめ月末締め(31日)に設定されています。

注意 締日の変更は、締日後または翌日の出勤打刻前に行ってください。
ご使用中の月の途中での締日変更はしないでください。
それまでの**出退勤データが消去**されます。

例　月末締め(31日)を20日締めに変更する場合

※月末締めは“31”と設定します。



❶ 設定開始ボタンを押してから機能ボタンを押すと、表示の上側の“▲”が「締日」に合います。
項目決定ボタンを押すと締日が表示されます。

❷ ＋又は－ボタンを押して、“20”日に合わせ、次にセットボタンを押して、点滅から点灯に変われば締日の設定は完了です。

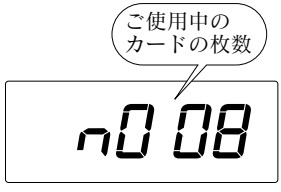
❸ 設定状態からご使用状態に戻すため、設定終了ボタンを押します。
これで設定は終了です。
表示は時刻のコロンが点滅し、ご使用状態に戻ります。
カバーをつけてご使用ください。

できるだけ避けてください

タイムカードをご使用中で月の途中に締日を変更される場合……

締日を変更すると、出退勤データはすべて消去されます。
パソコンと連携されているお客様は、必ず、出退勤データをUSBメモリに出力してから行ってください。

上記2の＋又は－ボタンで、締日を変更した後にセットボタンを押すと、右図のような表示になります。

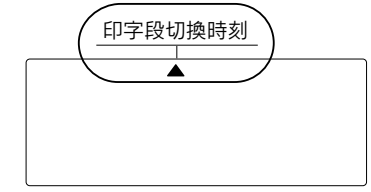


再度セットボタンを押すと、変更前までの出退勤データがすべて消去され“n000”が表示されます。

印字段切換時刻の設定

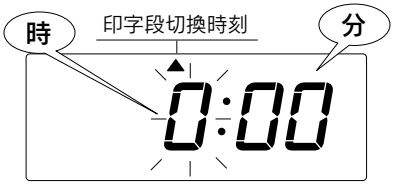
印字段切換時刻とは、タイムカードの印字を1段下げて、次の日の段に切り換える時刻のことです。
印字段切換時刻をまたいで退勤する場合は、徹夜ボタンを押してからカードを挿入することで、出勤と同じ段に印字する事ができます。印字段切換時刻をまたいで退勤する従業員が多数いる場合は、確実に全ての従業員が退勤する時刻に変更してください。

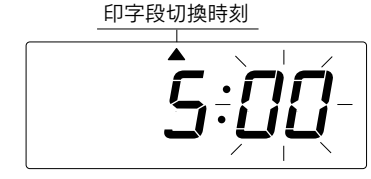
例　印字段切換時刻を午前0:00から午前5:00に変更する場合



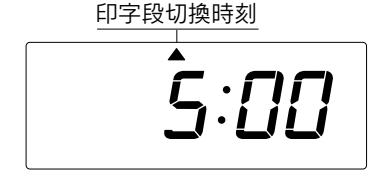
❶ 設定開始ボタンを押してから機能ボタンを押して、表示の上側の“▲”を「印字段切換」に合わせます。項目決定ボタンを押すと、印字段切換が表示されます。

点滅している数字が変更できます。

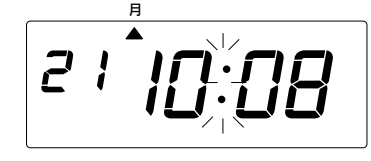




❷ ＋ボタンを押して“5”時に合わせ、次にセットボタンを押します。これで“時”が設定できました。この時表示の点滅は“時”から“分”に移ります。



❸ 例では“分”は“00”分のまま変更しませんので、このままもう一度セットボタンを押して、“00”が点滅から点灯に変われば印字段切換時刻の設定は完了です。



❹ 設定状態からご使用状態に戻すため、設定終了ボタンを押します。これで設定は終了です。
表示は時刻のコロンが点滅し、ご使用状態にもどりました。
カバーをつけてご使用ください。

集計方法の設定

集計方法は、あらかじめ計算なしPC連携モードに設定されています。タイムレコーダで時間計算をご希望される場合は、設定変更が必要です。
※タイムレコーダで時間計算をさせたい場合は、別冊「Z170取扱説明書B」をご覧ください。

注意 ご使用中の月の途中で集計方法の変更はしないでください。それまでの出退勤データが消去されます。

集計方法は次の6種類があります。

選択番号	集計方法	内容
1	実働＋集計	日ごとの実働時間数の計算とその日までの累計実働時間数を集計します。 ➡1ヵ月の実働時間数の集計結果を印字。
2	実働	日ごとの実働時間数の計算のみ行います。 ※集計結果は印字しません。
3	残業＋集計	日ごとの残業時間数の計算とその日までの累計残業時間数を集計します。 ➡1ヵ月の残業時間数の集計結果を印字。
4	残業	日ごとの残業時間数の計算のみ行います。 ※集計結果は印字しません。
5	計算なし（PC連携）	打刻のみで計算はしません。 ※1日に6回まで打刻することができます。 USBメモリに出退勤データを出力できるようになり、パソコンとの連携が可能となります。
6	計算なし（手動欄選択）	打刻のみで計算はしません。 ※1日に6回まで打刻することができます。

あらかじめ設定されています。

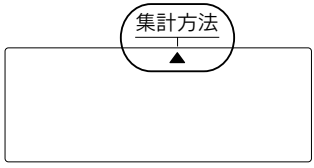
重要!

集計方法の種類によって次ページ以降の「就業時間」や「休憩時間」、「まるめ処理」などの設定が必要となる場合があります。

集計設定		設定変更ができる機能					
選択番号	集計方法	就業時間	休憩時間	まるめ処理	プログラム	端末No.	出力形式
1	実働＋集計	○	○	○	－	－	－
2	実働	○	○	○	－	－	－
3	残業＋集計	必須	○	○	－	－	－
4	残業	必須	○	○	－	－	－
5	計算なし	－	－	－	○	○	○
6	計算なし	－	－	－	○	－	－

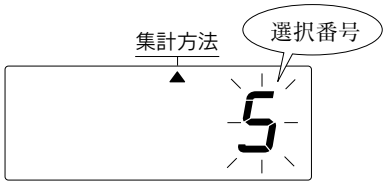
“○”印＝設定や変更ができる機能　／　“－”印＝設定できない機能（スキップされる）

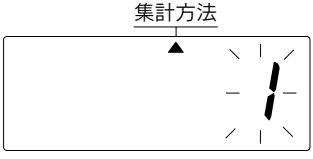
例　集計方法を“5”「計算なしPC連携」から“1”「実働計算＋集計」に変更する場合



❶ 設定開始ボタンを押してから機能ボタンを押して、表示の上側の“▲”を「集計方法」に合わせます。項目決定ボタンを押すと集計方法の選択番号が表示されます。

点滅している数字が変更できます。





❷ ＋ボタンを押して、選択番号“1”の「実働計算＋集計」に合わせセットボタンを押して、点滅から点灯に変われば集計方法の設定は完了です。

❸ 設定状態からご使用状態に戻すため、設定終了ボタンを押します。これで設定は終了です。表示は時刻のコロンが点滅し、ご使用状態に戻りました。
カバーをつけてご使用ください。

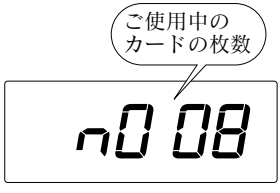
できるだけ避けてください

タイムカードをご使用中で月の途中に集計方法を変更される場合……

集計方法を変更すると、出退勤データはすべて消去されます。
パソコンと連携されているお客様は、必ず、出退勤データをUSBメモリに出力してから行ってください。

上記2の＋又は－ボタンで、集計方法を変更した後にセットボタンを押すと、右図のような表示になります。

再度セットボタンを押すと、変更前までの出退勤データがすべて消去され“n000”が表示されます。



プログラムの設定

プログラムとは、出勤時や退勤時に操作ボタンを押さなくても、印字欄を自動で切換えたり遅刻・早退の識別に便利なイレギュラーマーク(▲)を曜日と時間帯に応じて印字する設定プログラムのことをいいます。
工場出荷時にはプログラムは設定されていません。

重要!

プログラムは24個(“01”～“24”)まで設定できます。プログラムを設定しない時間帯は、手動で選択した欄が保持されます。

次の例でプログラムについて説明します。

●ある会社の就業時間

(月～金)
09:00 始業(9:00以降の出社は遅刻)
12:00～13:00 お昼休み
17:00 終業(17:00以前の退社は早退)
17:30 残業
22:00 深夜残業

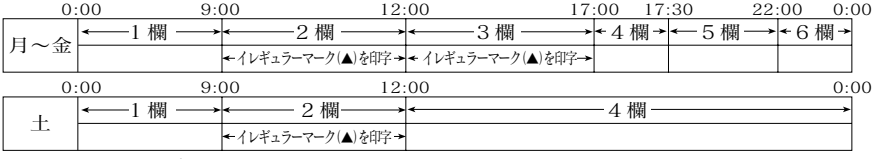
(土)
09:00 始業(9:00以降の出社は遅刻)
12:00 終業(12:00以前の退社は早退)

タイムレコーダでの一日は、タイムカードの印字する行(印字段)が切り換わる「印字段切換時刻」から始まります。

「印字段切換時刻の設定」(16ページ)をご参照ください。

●プログラムのタイムテーブル

(例) 印字段切換時刻が「0:00」、及び集計方法が設定値5および6(計算無し)の場合



次に、この例のプログラム表を作成してみます。

●プログラム表

プログラムNo.	曜日	時刻	印字欄	イレギュラーマーク(▲)を印字
01	月～金	00:00～	1 欄	Off
02	月～金	09:00～	2 欄	On
03	月～金	12:00～	3 欄	On
04	月～金	17:00～	4 欄	Off
05	月～金	17:30～	5 欄	Off
06	月～金	22:00	6 欄	Off
07	土	0:00～	1 欄	Off
08	土	09:00～	2 欄	On
09	土	12:00～	4 欄	Off

●打刻例

曜日	出勤			退勤
打刻欄	1 欄	2 欄	3 欄	4 欄
月曜	08:50			17:10
火曜		09:05▲		17:10
水曜	08:50		15:00▲	
土曜(例1)	08:50			12:10
土曜(例2)		09:05▲		12:10
土曜(例3)	08:50	11:00▲		

●プログラムを設定するには

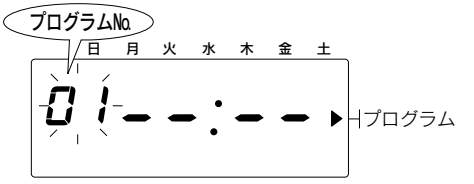
19ページのプログラム表にしたがって、設定の手順を説明します。

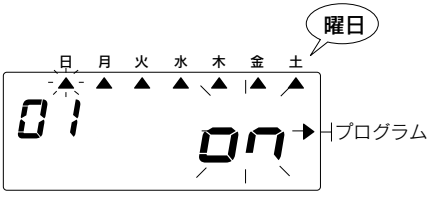
重要!

まず最初に、ご自分の会社の就業時間に合わせて、19ページのプログラム表を作成してから、プログラムの設定をしてください。

❶ 設定開始ボタンを押してから機能ボタンを押して、表示の右側の“▲”を「プログラム」に合わせます。項目決定ボタンを押すと、プログラムNo.が表示されます。

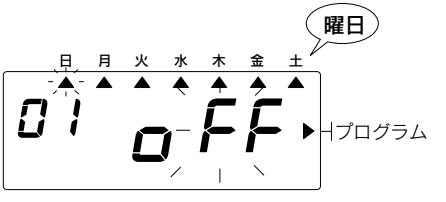
点滅している数字が変更できます。





❷ プログラムNo.“01”の内容を設定します。

(1)プログラムNo.“01”が選択されていますので、そのまま セット ボタンを押します。
これで“曜日”の設定ができるようになります。
“日”曜日の下の“▲”が点滅します。

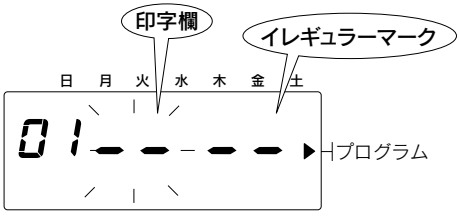


(2) ＋ ボタンまたは －ボタンを押すと“日曜日”のプログラム設定の“On”/“Off”が切り替えられます。ここでは “Off”の状態で セット ボタンを押し、“Off”に設定します。

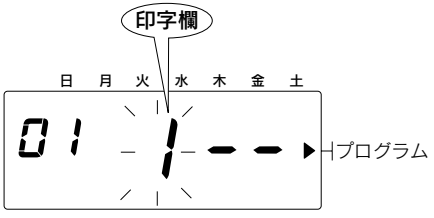
(3)このとき“日”曜日の下の“▲”が消えて、“月”曜日の下の“▲”が点滅します。ここでは“On”の状態で セット ボタンを押し、“On”に設定します。
同じ方法で“火”～“金”曜日までを“On”に、設定します。最後に“土”曜日を“Off”に設定します。

(4)これで曜日の設定ができました。この時の表示の点滅は“曜日”から“時:分”に移り、“時刻”の設定ができるようになります。

(5)[十]ボタンを押して、“時刻”を変更しますが、ここでは“0”時の設定になっていますので、単に[セット]ボタンを押します。これで“0”時が設定できました。この時表示の点滅は“時”から“分”に移ります。

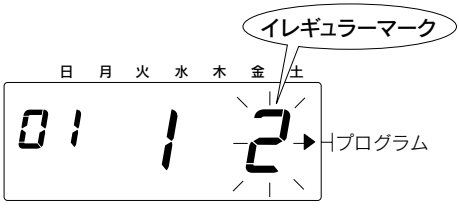


(6)[十]ボタンを押して、“分”を変更しますがここでは“00”分の設定になっていますので、単に[セット]ボタンを押します。これで“00”分が設定できました。この時表示の点滅は“分”から“印字欄”に移ります。



(7)[十]ボタンを押して“1”欄に合わせ、次に[セット]ボタンを押します。これで“1”欄が設定できました。この時表示の点滅は“印字欄”から“イレギュラーマーク指定”に移ります。

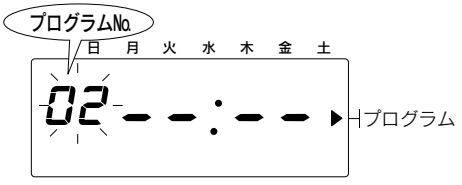
設定値	印字欄
1	1 欄
2	2 欄
3	3 欄
4	4 欄
5	5 欄
6	6 欄
－－	指定しない



(8)[十]ボタンを押して“2”(Off)に合わせ、次に[セット]ボタンを押します。これで“2”(Off)が設定できました。この時表示は左図のようになります。これでプログラムNo.“01”の設定ができました。

設定値	マーク
1	on
2	off
－	指定しない

(9)プログラムNo“01”の設定が完了すると、表示は左図のようになります。



❸ 次にプログラムNo.“02”の内容を設定します。

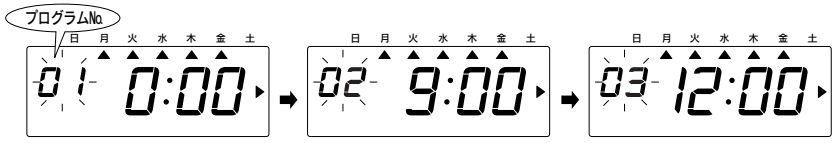
(1)もう一度セットボタンを1回押して、上記で設定したプログラムNo.“01”を点滅させます。
次に＋ボタンを押してプログラムNo.“02”に合わせ、セットボタンを押します。

プログラムNo.“01”と同様の操作（20ページの②･(1)～(9)）でプログラムNo.“02”を設定します。

❹ プログラムNo.“03”～“09”も同様の操作で設定します。
すべてのプログラム設定ができたら、設定終了ボタンを押します。
これで設定は終了です。
表示は時刻のコロンが点滅し、ご使用状態に戻りました。
カバーをつけて使用ください。

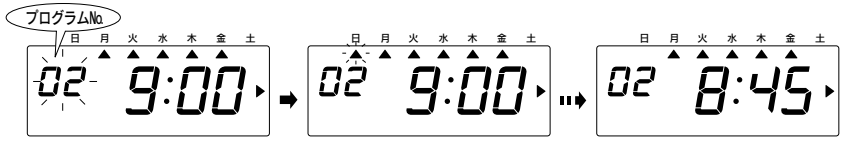
●プログラムの内容を確認するには

設定開始ボタンを押してから機能ボタンを押して、表示の上側の“▲”を「プログラム」に合わせます。項目決定ボタンを押すと、プログラムNoが表示されます。
＋ボタンを押すごとに、“01”→“02”→“03”･･･の順番でプログラムの内容を確認できます。



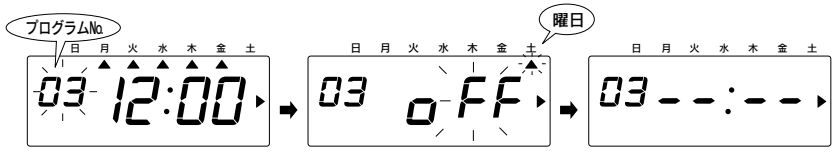
●プログラムの内容を変更するには

設定開始ボタンを押してから機能ボタンを押して、表示の上側の“▲”を「プログラム」に合わせます。項目決定ボタンを押すと、プログラムNoが表示されます。
＋ボタンを押して変更したいプログラムNo.を点滅させます。設定したときと同じように＋ボタン、セットボタンを押して、そのプログラムを設定しなおしてください。



●プログラムの内容を消すには

設定開始ボタンを押してから機能ボタンを押して、表示の上側の“▲”を「プログラム」に合わせます。項目決定ボタンを押すと、プログラムNoが表示されます。
＋ボタンを押して消したいプログラムNo.を点滅させ、セットボタンを1回押します。
－ボタンを押して各“曜日”の下の“▲”を全て消します。次にセットボタンを1回押すことにより右下図のようになりプログラムが消去できます。



設定状態からご使用状態に戻すため、もう一度設定終了ボタンを押します。これで設定は終了です。表示は時刻のコロンが点滅し、ご使用状態に戻りました。
カバーをつけてご使用ください。

サマータイムの設定

日本国内でサマータイムが導入されたときに設定してください。

タイムレコーダのサマータイム機能について

❶ **サマータイムの実行時間**

サマータイム開始日の午前2時になると、自動的に時刻が1時間進んで午前3時となり、サマータイム終了日午前2時になると、自動的に時刻が1時間戻って午前1時となるようになっています。

❷ **サマータイムの実行日**

例えば

開始日　2015年 4月 5日(日曜日)
終了日　2015年10月25日(日曜日)
と設定した場合、タイムレコーダは開始日を4月の最初の日曜日、終了日を10月の最後の日曜日と記憶します。一度設定していただければ、翌年からのサマータイムの設定はタイムレコーダが**自動的に**

開始日　４月の最初の日曜日
終了日　10月の最後の日曜日

と更新しますので、**その後の設定は不要です。**

工場出荷時は、サマータイム開始日、サマータイム終了日の設定はされていません。

サマータイムの設定は、その年の開始日と終了日の月日を入力することにより行います。

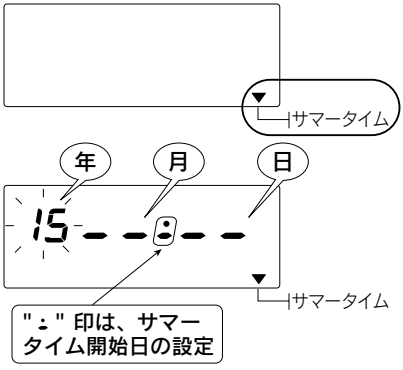
次の例でサマータイムの設定方法を説明します。

例

今　日(現在日)　　2015年　1月21日(水)
サマータイム開始日　2015年　4月　5日(日)　＜　4月最初の日曜日＞
サマータイム終了日　2015年10月25日(日)　＜10月最後の日曜日＞

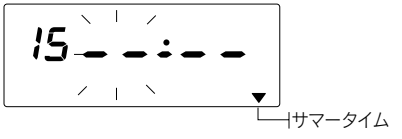
(1) サマータイム開始日の設定

例　開始日：4月の最初の日曜日の場合（2015年4月5日の場合）

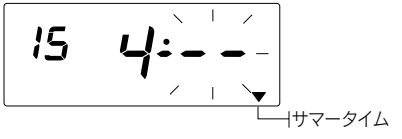


❶ 設定開始ボタンを押してから機能ボタンを押して、表示の下側の“▲”を「サマータイム」に合わせます。項目決定ボタンを押すと年が表示されます。

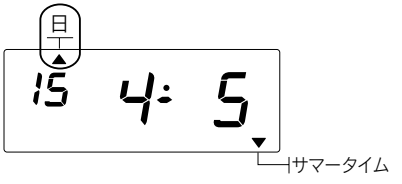
点滅している数字が変更できます。



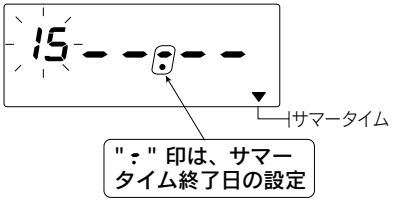
❷ 例では、“年”は2015年のまま変更しませんので、このままセットボタンを押します。
このとき表示の点滅は、“年”から“月”に移ります。



❸ サマータイム開始の“月”を設定します。
＋ボタンを押して、“4”月に合わせ、次にセットボタンを押します。
これで４月が設定できました。
このとき表示の点滅は、“月”から“日”に移ります。



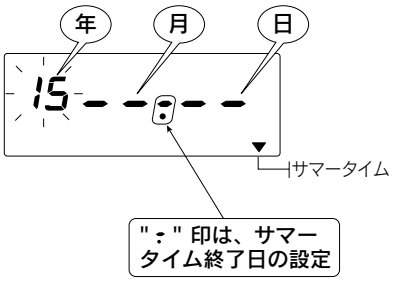
❹ サマータイム開始日の“日”を設定します。
＋ボタンを押して、“5”日に合わせ、次にセットボタンを押します。
これで5日が設定できました。このとき表示の“日”の点滅が点灯に変わり日曜日の下に“▲”印が点灯します。これでサマータイム開始日の設定ができました。



❺ 開始日の設定ができると、表示画面は終了日の設定画面に変わります。
サマータイム終了日の設定方法は次ページをご参照ください。

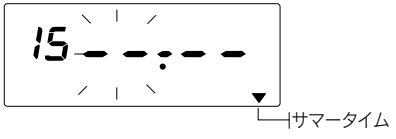
(2) サマータイム終了日の設定

例　終了日：10月の最後の日曜日の場合 (2015年10月25日の場合)

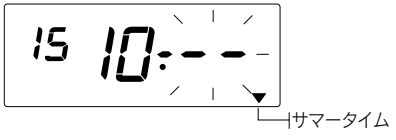


❶ 開始日の設定ができると、表示画面は終了日の設定画面に変わります。

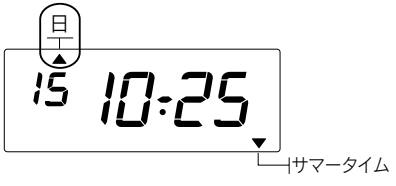
点滅している数字を変更できます。



❷ 例では、“年”は2015年のまま変更しませんので、このままセットボタンを押します。
このとき表示の点滅は、“年”から“月”に移ります。



❸ サマータイム終了の“月”を設定します。
＋ボタンを押して、“10”月に合わせ、次にセットボタンを押します。
これで10月が設定できました。
このとき表示の点滅は、“月”から“日”に移ります。

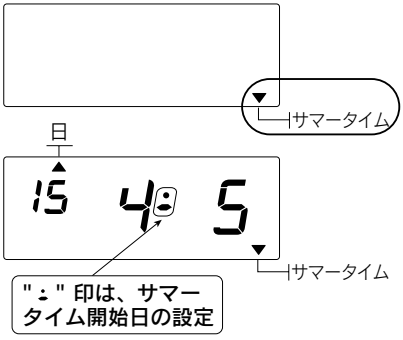


❹ サマータイム終了日の“日”を設定します。
＋ボタンを押して、“25”日に合わせ、次にセットボタンを押します。
これで25日が設定できました。
このとき表示の“日”の点滅が点灯に変わり、日曜日の下に“▲”印が点灯します。これでサマータイムの設定が終了しました。

❺ 設定状態からご使用状態に戻すため、設定終了ボタンを押します。
これで設定は終了です。表示は時刻のコロンが点滅し、ご使用状態に戻りました。
カバーをつけてご使用ください。

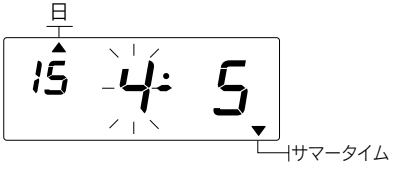
(3) サマータイム設定を取り消す場合

一度設定されたサマータイム設定を取り消す場合、“サマータイムの開始日”の“月”の表示を“--”とすることによりサマータイムは無効になります。

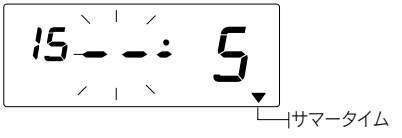


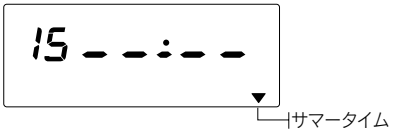
❶ 設定開始ボタンを押してから機能ボタンを押して、表示の下側の“▲”を「サマータイム」に合わせます。項目決定ボタンを押すと年が表示されます。

点滅している数字が変更できます。



❷ “年”は変更しませんので、このままセットボタンを押します。このとき表示の点滅は、“年”から“月”に移ります。





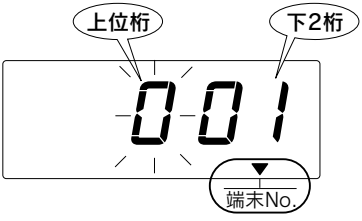
❸ サマータイム開始の“月”を＋ボタンを押して、“ -- ”に合わせ、次にセットボタンを押して、“日”が“--”に変わればサマータイム設定の取り消しが完了です。
このとき表示の点滅は、“--:--”になります。

❹ 設定状態からご使用状態に戻すため、設定終了ボタンを押します。
これで設定は終了です。
表示は時刻のコロンが点滅し、ご使用状態に戻りました。
カバーをつけてご使用ください。

端末No.の設定

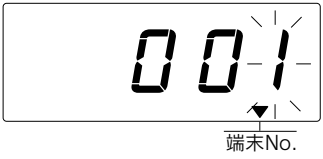
端末No.とは複数のタイムレコーダをお使いになる場合、それぞれのタイムレコーダを区別するために設定する番号のことです。
工場出荷時の設定は“001”になっています。

例　端末No.を“001”番からから“002”番に変更する場合



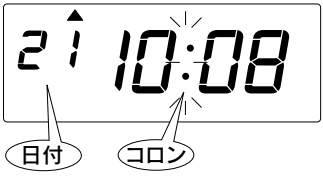
❶ 設定開始ボタンを押してから機能ボタンを押して、表示の下側の“▼”を「端末No.」に合わせます。
項目決定ボタンを押すと端末No.の設定が表示されます。

点滅しているところが変更できます。



❷ 例では百の桁と十の桁は“0”で変更しませんので、このまま2回セットボタンを押します。
このとき表示の点滅は“百の桁”から“一の桁”に移ります。

❸ ＋ボタンを押して“2”に合わせ、次にセットボタンを押します。
これで端末No.の設定ができました。



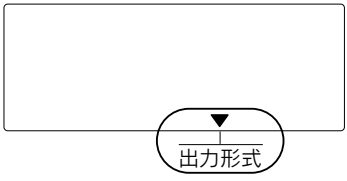
❹ 設定状態からご使用状態に戻すため、設定終了ボタンを押します。
これで設定は終了です。
表示は時刻のコロンが点滅し、ご使用状態に戻りました。
カバーをつけてご使用ください。

出力形式の設定

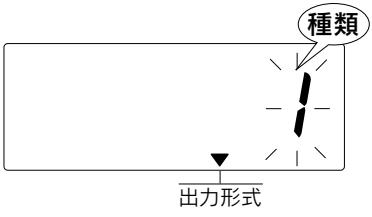
出力形式の設定は、USBメモリに出力する出退勤データの種類のことです。
工場出荷時は“CSV形式”になっています。
弊社の旧製品「EST－7550」の代替機としてご使用になりたい場合には
「EST－7550互換」に設定します。

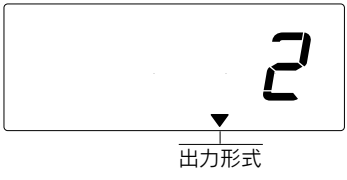
種類	出力形式	内容
1	ＣＳＶ形式	市販の表計算ソフトで扱えるデータで出力します。
2	EST－7550互換	弊社の旧製品「EST－7550」に付属する集計ソフト「勤たんＱＲ」専用のデータで出力します。

例　出力形式を“CSV形式”から“EST－7550互換”に変更する場合

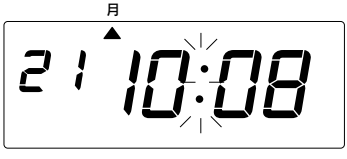


❶ 設定開始ボタンを押してから機能ボタンを押して、表示の下側の“▼”を「出力形式」に合わせます。
項目決定ボタンを押すと出力形式の設定が表示されます。





❷ ＋ボタンを押して、種類“2”の「EST－7550互換」に合わせ、次にセットボタンを押して、点滅から点灯に変われば出力形式の設定は完了です。



❸ 設定状態からご使用状態に戻すため、設定終了ボタンを押します。
これで設定は終了です。
表示は時刻のコロンが点滅し、ご使用状態に戻りました。
カバーをつけてご使用ください。

出退勤データについて

本製品は、市販の表計算ソフトで扱える「CSV形式」で出退勤データをUSBメモリに出力できます。
お客様がご使用されている表計算ソフトで、ご自由にお使いください。
出退勤データは、USBメモリのルートフォルダ内に保存されます。
出退勤データのファイル名は以下の通りとなります。

PDF001OO.CSV
- CSV形式であることを意味します
- ファイル番号：USBメモリ内に保存したファイルの番号です。
- 端末No.：端末No.設定で指定した番号です。
- タイトル：本製品で出力したファイルであることを意味します。

本製品は、USBメモリに出退勤データを出力するたびに、ファイルを１つ作成します。
USBメモリ内には、1台あたり最大256個までしかファイルを作れませんので、パソコンにファイルをコピーしたら、USBメモリから消去してください。

出退勤データの内容は、１行目がデータヘッダで２行目から打刻データとなります。
打刻データは、１行が１日に打刻した１人分のデータとなります。

＜データヘッダ＞

Q092X,001,00:00,15/10/20,10:08
- 出退勤データを出力した日時です。
- 本製品に設定されている印字段切換時刻です。
- 本製品に設定されている端末No.です。
- 本製品の識別記号です。

＜打刻データ＞

001,001,15/10/1,09:00,0,10:08,0,12:00,0,18:10,0,20:00,0,02:10,1
- 2欄目　3欄目　4欄目　5欄目　6欄目※
- １欄目を打刻した時の経過日数※
- １欄目を打刻した時の時刻
- 打刻日「年／月／日」
- タイムカード番号
- 端末No.

※経過日数とは、打刻日を基準に日付を跨いだ打刻をした場合にカウントされる値です。上記打刻データの例では、１欄目から５欄目までを2015年10月1日に打刻し、６欄目に徹夜ボタンを押して2015年10月2日の2:10に打刻したことを意味します。

パスワードの設定／解除

改ざん目的などの故意の時間修正や設定の変更を防止するため4桁のパスワードを設定できます。

●パスワードを設定するには

パスワードは“0001～9998”までの数字で設定してください。“0000”及び“9999”は設定できません。

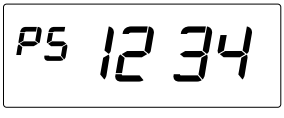
重要! パスワードを設定した場合は、パスワードを入力しないと、時刻修正や設定を変更できません。

例 パスワードを“1234”に設定する。

❶ 設定開始ボタンを押します。
次に日時ボタンと機能ボタンを同時に押すと、左記のような画面が表示されます。

❷ ＋ ボタンを押して表示の点滅を“1”に合わせ、セットボタンを押します。この時表示の点滅は“2桁”目に移ります。

❸ ＋ ボタンを押して表示の点滅を“2”に合わせ、セットボタンを押します。この時表示の点滅は“3桁”目に移ります。＋ ボタンを押して表示の点滅を“3”に合わせ、セットボタンを押します。



❹ 同様に“4桁”を“4”に合わせセットボタンを押します。
これでパスワードの設定が終わりました。

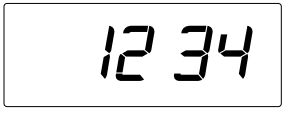
❺ 設定状態からご使用状態に戻すため、設定終了ボタンを押します。
これで設定は終了です。表示は時刻のコロンが点滅し、ご使用状態に戻りました。
カバーをつけてご使用ください。

●パスワードを設定した後に各種設定項目を変更するには

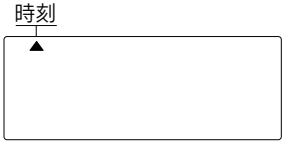
パスワードを設定した場合は、パスワードを入力しないと、時刻修正や各種設定を変更できません。パスワードは忘れないように管理してください。

例 パスワードが“1234”の場合

❶ 設定開始ボタンを押してから日時や機能などの設定項目ボタンを押すと、左図のように“9999”が表示されます。



❷ 4桁のパスワードを＋又は－ボタンで数字を変えて、セットボタンで入力します。



• 日時設定モードを選択した場合

❸ 正しくパスワードが入力できると、表示が左図のようになります。

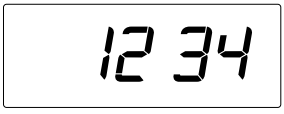
入力したパスワードが間違えていると（E-40）と言うエラーメッセージを表示して①に戻ります。

●パスワードを解除するには

パスワードを忘れてしまった場合は、後述の「オールクリア」を行ってください。
なお、オールクリアを行うと、出退勤データや各設定項目は初期設定に戻りますので、あらためて設定しなおしてください。日付や時刻も設定しなおしてください。

例 パスワード“1234”を解除する。

❶ 設定開始ボタンを押します。
次に日時ボタンと機能ボタンを同時に押すと、左図のように“9999”が表示されます。



❷ 4桁のパスワードを＋又は－ボタンで数字を変えて、セットボタンで入力します。

❸ 正しくパスワードが入力できると、表示が左図のようになります。

❹ 4桁のパスワードを＋又は－ボタンで“00 00”に変えてセットボタンを押します。
表示の点滅は点灯に変わります。

❺ 設定状態からご使用状態に戻すため、設定終了ボタンを押します。
これで設定は終了です。
表示は時刻のコロンが点滅し、ご使用状態に戻りました。
カバーをつけてご使用ください。

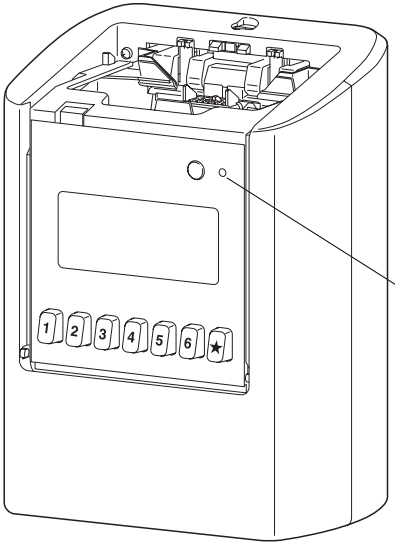
重要!

パスワードを忘れてしまった場合は、後述の「オールクリア」を行ってください。
なお、オールクリアを行うと、各設定項目は初期の状態に戻りますので、あらためて設定し直してください。日付や時刻も設定してください。

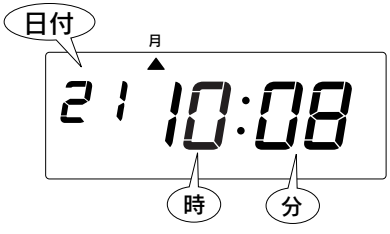
「オールクリア」(35ページ)、
「設定のしかた」(11ページ)をご参照ください。

リセット

タイムレコーダがうまく動作しないときは、先の細いもので リセットスイッチを押してください。リセットスイッチのみを押しても設定内容が消去されることはありません。



リセットスイッチ
（丸穴部）

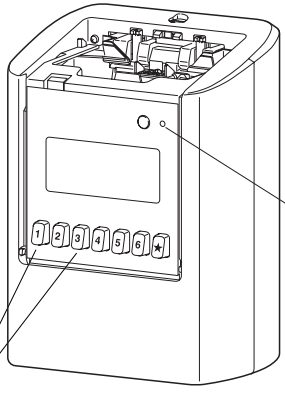


※リセットスイッチを押すと、現在の日にちと時刻が表示されます。念のため、タイムカードの試し打ちをおすすめします。

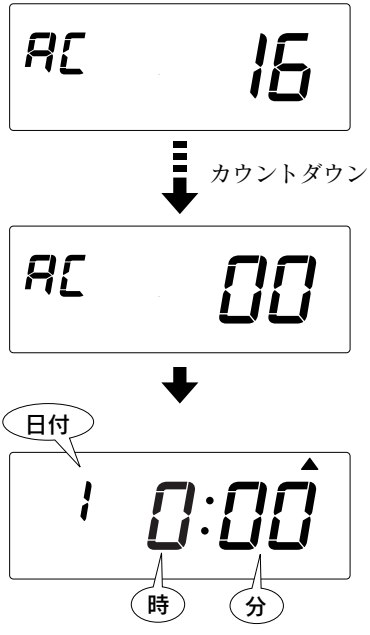
オールクリア

すべての設定を初期の状態に戻したいときに行います。

注意 オールクリアすることにより、お客様が設定した内容や出退勤データは消去されてしまいますのでご注意ください。



同時に押しながら、リセットスイッチを押します。



タイムレコーダ本体の左から1、3番目の2つのボタンを同時に押しながら、先の細いものでリセットスイッチを押すと、表示は左図のようになり、設定は初期状態になります。

※時刻と日付は必ず設定し直してください。

4.日常の操作

このタイムレコーダは、あらかじめ計算なしPC連携となるように工場出荷時に設定されています。
締日や集計方法を設定した後にお使いください。

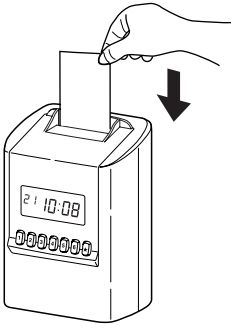
「設定のしかた」(11ページ)を必ずお読みください。

注意

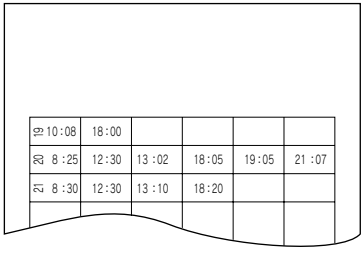
Zカードは、カードの右上に＜001＞から＜100＞までのカード番号が印刷されています。
現在使用中の箱と新たに開封した箱の両方から同時にタイムカードを取り出す場合は、カード番号が絶対に重複しないようにしてください。
タイムレコーダは、カード番号に基づいて出退勤データを記憶しますので、カード番号が重複するとパソコン側の集計ソフトで正しい計算ができなくなります。
カード番号の重複を未然に防止するためにも、常に若い番号のカードから順番に使用するよう心掛けてください。

タイムカードをカード挿入口にかるく入れます。タイムカードは自動的に引き込まれ、印字後に自動的に上がってきます。

自動的に印字欄が選択されて打刻します



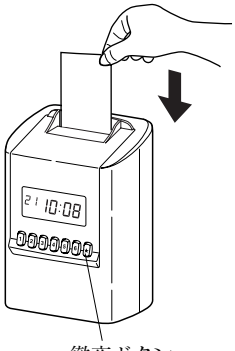
☆6欄印字



19	10:08	18:00				
20	8:25	12:30	13:02	18:05	19:05	21:07
21	8:30	12:30	13:10	18:20		

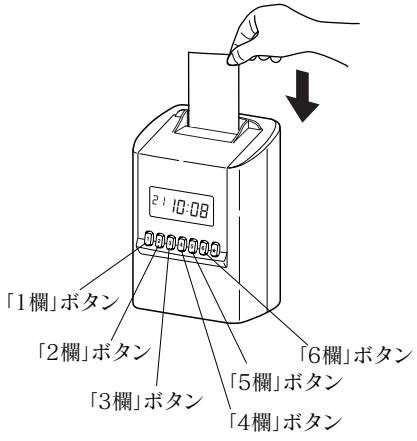
Zカードのバーコード部分は汚さないようご注意ください。
また、ペン書きしたり付箋などの貼付けも厳禁です。タイムレコーダがバーコードを読みと取れなくなる場合があります。

徹夜勤務をした時は



徹夜ボタンを押した後にタイムカードを入れてください。
前日の段の6欄に徹夜マーク･“テ”を付けて印字することができます。

印字したい印字欄に変えるには



印字したい欄のボタンを押した後にタイムカードを入れてください。

注意 一度印字したい欄や、すでに印字した欄より左側の欄には印字することができません。

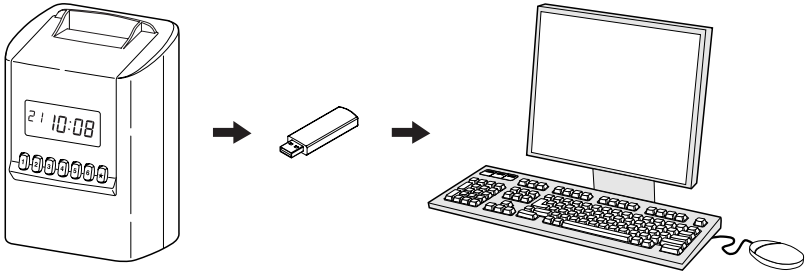
(プログラム設定時)
プログラムを設定することで、時間帯により印字する欄を自動で選択する事ができます。

5.パソコンとの連携

タイムレコーダに記録された出退勤データをパソコンに転送することができます。
パソコンに転送する出退勤データは、CSV形式で出力されます。
市販の表計算ソフトなどで読み込めますので、ご自由にお使いください。

> 出退勤データの詳細は、30ページの「出退勤データについて」をご覧ください。

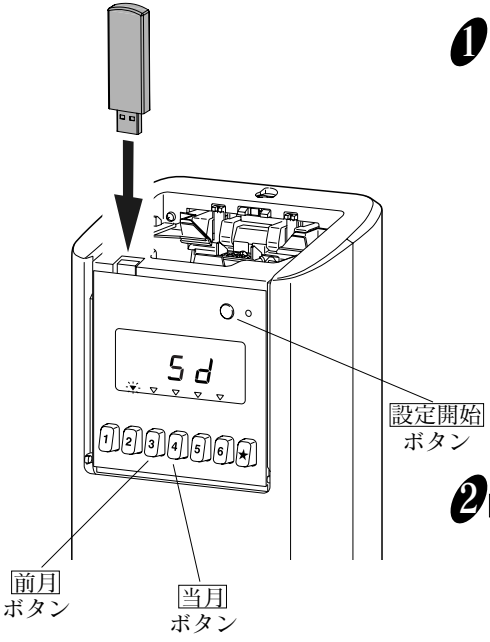
出退勤データの転送は、付属のUSBメモリを使っておこないます。



> タイムレコーダには、タイムカードに打刻したときの日付や時刻といった出退勤データを、カード１枚当たり約２ヵ月分記録できます。

> **注意** タイムレコーダ内の出退勤データは、２ヵ月分を超えると古い出退勤データから消去されますので、お早めにパソコンへ転送してください。

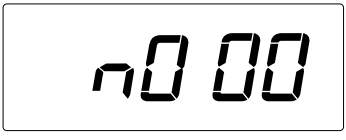
●出退勤データの出力手順（USBメモリを使います）



❶ USBメモリを差し込み口に差し込みます。

> **注意** ＵＳＢメモリ以外のものは、故障の原因となりますので、差し込まないでください。

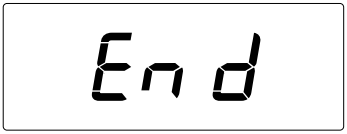
❷ 設定開始ボタンを押してから、前月ボタンと当月ボタンを同時に押します。
すると画面に「Sd」と表示されます。



❸ 画面に「n000」…「n100」と表示され、データの出力が開始されます。

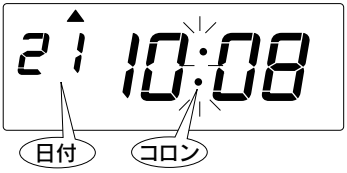
❹ 画面に「c000」…「c100」と表示し、USBメモリに出力したデータが、正常に書き込まれたかチェックしています。

> ⊘ “▼”が点滅してる間、「nXXX」、「cXXX」が表示されている間はデータ転送中ですので、USBメモリを抜かないでください。データの破損及びタイムレコーダ本体とUSBメモリの故障の原因となります。



❺ データの転送が完了すると「End」と表示されます。これで出退勤データの出力が完了しました。

タイムレコーダ本体に出退勤データが入ってない場合、「no」と表示されます。



❻ ご使用状態に戻すため、USBメモリを差し込み口から抜いてください。数秒後、自動的に時刻表示に戻ります。
カバーをつけてご使用ください。

注意

タイムレコーダ本体またはUSBメモリへ保存されたデータが消失、破損したことによる被害につきましては、弊社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。
消失、破損したデータの回復作業もお受けしておりませんので、あらかじめご了承ください。
USBメモリの故障に関しましても一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

6.Q&A

Q1 違う日にちの段に印字されるのですが、どうすればよいですか？

A1 次の2つをご確認ください。

(1) 締日が違う数値で設定されていませんか。

対処方法→機能設定モードにして、締日を正しい数値に設定してください。

「締日の設定」(15ページ) をご参照ください。

大の月、小の月によらず、月末締めの場合は締日“31”日のままでご利用いただけます。

(2) 印字段切換時刻が従業員の勤務している時刻に設定されていませんか。

対処方法→印字段切換時刻は、従業員が退勤して誰もいなくなる時間帯で設定してください。

「印字段切換時刻の設定」(16ページ) をご参照ください。

Q2 印字段切換時刻を越えて勤務した場合、出勤と同じ日付に退勤の印字はできませんか？

A2 できます。〔徹夜〕ボタンを押してからタイムカードをタイムレコーダに挿入してください。出勤日と同じ印字段の6欄目に「テ」のコメント付きで印字されます。

Q3 このタイムレコーダは何人まで使えるのですか？

A3 タイムレコーダ1台につき、最大で100人までの管理が可能です。Zカードのカード番号(001番から100番)が重複しない様にご注意ください。1台のタイムレコーダで重複したカード番号を使用しますと正しい打刻データが、印字・記録できなくなります。

Q4 このタイムレコーダで時間計算をしたいのですが？

A4 集計方法に選択番号“1”から“4”を設定すると、タイムカードに計算結果を印字できるようになります。
詳しくは、別冊「Z17O取扱説明書B」をご覧ください。
尚、集計方法を変更すると、タイムレコーダ内に記録されている出退勤データが消えてしまうので、ご注意ください。

7.こんなときには

エラー番号が表示されたら

エラー番号を確認して正しい操作を行ってください。

番号	エラー内容	対策
E-00	動作異常です。	ご購入の販売店へご連絡ください。
E-01	バックアップエラーです。	ACアダプタをコンセントから抜いてください。約10分後、もう一度ACアダプタをコンセントに入れてください。
E-05	タイムカードを正しく引き込むことができません。	タイムレコーダ内部にクリップ、付箋などの異物やタイムカードが詰まっていないか確認してください。 確認後、再度タイムカードを入れてください。
E-15	タイムカードを正しく監視できません。	
E-16	集計データの読出しや更新に失敗しました。	もう一度打刻してみるか、別のカードで試してみてください。 それでもエラー番号が表示される場合は、販売店もしくは当社までご連絡ください。
E-18		
E-17	保存用メモリのフォーマットエラーです。	「オールクリア」(35ページ)を実行してください。
E-30	印字ができません。	タイムレコーダ内部にクリップ、付箋などの異物やタイムカードが詰まっていないか確認してください。 リボンカセットがきちんとセットされているか確認してください。
E-38	プリンタに異常があります。	
E-39		
E-40	パスワードエラーです。	パスワードを正しく入力してください。
E-41	サマータイムが正しく設定されていません。	サマータイムの開始日または終了日の設定内容を確認して、正しい値を設定してください。
E-49	設定できない値を入力しています。	設定内容を確認して正しい値で設定してください。
E-50	タイムカードが使用できない状態またはZカード以外のカードが使用されています。	Zカードかどうかを確認のうえ、タイムカードのバーコード部分に汚れや破損がないかを確認してください。
E-51	打刻エラーです。	時計を戻すなどしていないかまた最後の打刻から1分以内に、同じ番号のタイムカードを挿入しなかったか確認してください。
E-52	打刻回数のオーバーです。	退勤の打刻がされているか確認してください。
E-53	ご使用カードが50人分を超えています。	当月ご使用のタイムカードが50人を超えていないか確認してください。
E-54	打ち忘れのため、集計できないカードがあります。	打ち忘れのタイムカードを入れてください。強制的に集計を終了できます。
E-56	前月分の未集計カードが挿入されました。	集計ボタンを押して、集計結果を印字するか、新しいタイムカードを入れてください。
E-59	出退勤データに異常があります。	USBメモリに打刻データを収集し「オールクリア」(35ページ)を実行してください。
E-60	USBメモリを正常に制御できませんでした。	タイムレコーダーの電源プラグをコンセントから一度抜いて、差し直してみてください。
E-61		
E-62		
E-63		
E-64		
E-65	USBメモリの空き容量が足りません。	USBメモリのデータを削除して空きを確認してください。
E-66	USBメモリ内のタイムレコーダの設定データに誤りがあります。	設定データをもう一度パソコンから入力してください。
E-67	USBメモリに、データの読み出しや書き込みが、できませんでした。	USBメモリが書込み禁止になっていないか確認してください また、タイムレコーダで使用する設定用ファイルや出力用ファイルが、読み取り専用に設定されていたり、フォルダ名に使用されていないか確認してください。
E-68	USBメモリを認識できませんでした。	タイムレコーダにUSBメモリが差し込まれていないか、使用できないUSBメモリが差し込まれています。 タイムレコーダで使用できるUSBメモリを差し込んでから、もう一度、操作を行ってください。
E-69	USBへ過電流が流れています。	USBメモリ以外のものが挿入されていませんか。

回復しない場合にはご購入の販売店もしくは当社までご連絡ください。

8.仕様一覧

時計精度	月差±15秒以内(常温)
カレンダー機能	～2099年　閏年、大小月、曜日は自動判定
印字方式	ドットインパクト方式
カード機構	自動引き込み･自動排出
使用タイムカード	Zカード
メモリー保持機能	工場出荷時より停電累計時間3年間
インターフェイス	USB接続(USBメモリ専用)
印字回数	集計あり：1日2回印字、集計なし：1日6回印字
集計人数	月間集計：50人 日毎計算：100人
使用環境	温度:－5～45℃　湿度:20～80%Rh　結露なし 温度が5℃以下の場合には正常に動作しますが､印字濃度、液晶表示の反応は通常使用時に比べて劣ります。
外形寸法	幅175×高さ244×奥行き132mm
質　　量	約1.4kg(ACアダプタ含む)
消費電力	0.2W(待機時)/ 26W(印字時)、AC100V(50/60Hz)
ACアダプタ定格	入力：100V-240V、50-60Hz　0.45A 出力：DC12V　1.5A

(注) 必ず､付属の専用ACアダプタを使用してください。

タイムカードは指定のＺカードをご使用ください
また、バーコードは絶対汚さないようにしてください。

9.消耗品およびオプション品

●タイムカード　Ｚカード＜型番：CA-Z＞(付属)

●リボンカセット　Z170用リボンカセット＜型番：TP-1051SB＞(付属)

●カードラック　＜型番：CR-S10＞10人用(別売)
＜型番：CR-PL10＞追加10人用(別売)

＜本保証書は切取らずコピーしてお使いください。＞

セイコータイムレコーダ保証書

Z170 **No.** _____

お買上げ日　　年　　月　　日

ご　住　所　_____

ご　氏　名　_____

お取扱店名及びご住所

印

このタイムレコーダはSEIKOの高度の品質管理のもとに厳密な検査に合格しておりますことを保証いたします。
万一通常のお取扱いにおいて故障を生じた時はお買上げの日から１年間無償で機械を調整致しますので、この保証書をそえて販売店または弊社にご連絡ください。

セイコープレシジョン株式会社

お問お合せ電話番号：0120-132030
受 付 時 間：9:00～12:00, 13:00～17:00
（土･日･祝祭日･弊社休業日を除く）

――注意事項――

保証期間内でも次のような場合は無償調整が適用されませんのでご了承ください。

1. 誤ったご使用、不当な修理、改造による故障及び損傷。
2. 火災、地震など天災地変による故障及び損傷。
3. 移動、輸送、落下などによる故障及び損傷。
4. 異常電圧による故障及び損傷。
5. 本保証書にお買い上げ日、お客様名、販売店名の記入がない場合、あるいは字句を書き換えた場合。
6. 本保証書のご提示がない場合。

本保証書は日本国内のみ有効です。
THIS GUARANTEE IS VALID ONLY IN JAPAN.

セイコープレシジョン株式会社

お問合せ電話番号：0120-132030
受 付 時 間：9:00～12:00, 13:00～17:00
（土・日・祝祭日・弊社休業日を除く）

Q0920-61200